

小林製薬株式会社 2022年12月期第1四半期 決算説明会 質疑応答要旨

- Q. 為替の感応度について教えて欲しい。
- A. 連結で見ると、米ドルが1円円安になれば通期で売上は+1億円、営業利益は+0.2億円となり、中国元が1円円安になれば売上は+5億円、営業利益は-1億円となる。
- Q. 国際事業の第2四半期以降の見通しは？
- A. 第1四半期は好調であったが、中国は現在ロックダウンの影響で4月の売上は落ち込んでいる。店頭・倉庫も稼働できていないのが影響している。
米国はAlva製品も売上が戻ってくると想定しており増収予定。東南アジアについてはワクチン特需もあり第1四半期は大幅に伸長したが、今後は落ち着いてくると予測している。
- Q. 国内外での値上げ対策を具体的に教えて欲しい。
- A. 国内は製品リニューアルやアイテム追加などでの高価格帯製品へのシフトをまずは考えている。海外については値上げに対しての許容性もあるので、一部交渉をスタートさせている。
- Q. 原材料値上げ対応の高価格帯へのシフトは具体的にはどのようにするのか？
- A. 過去の事例としては、日用品では液体ブルーレット除菌プラス等のアイテム追加、ヘルスケアでは同ブランドの上位版を発売して価格アップを図るなど、対応してきている。
- Q. 為替影響や原材料値上げ影響・海外のリスクに対して、それぞれどのくらいの売上利益インパクトを見込んでいるか教えて欲しい。
- A. 開示できる詳細な数字データは無いが、一番インパクトが大きいのは原材料値上げである。中国のロックダウンについては、今後も継続するようであれば大きな影響がでてくると予想している。
- Q. 国内での製品値上げ対応は最短でいつ頃になるか？
- A. 国内品の値上げについては、やる／やらないを含めて検討しているが、現段階で、具体的に決定したものはない。
- Q. 国内外どの割合で原材料値上げ影響があるか？
- A. 国内が7割、海外が3割程度。
- Q. 原材料値上げ影響はナフサ価格に連動する形か？
- A. ナフサに加えて、カイロの鉄粉価格も影響してくる。

- Q. 原材料値上げ額はどこで吸収するか？公表数値の営業利益は達成できる見込みか？
- A. コストダウン、製品設計の見直し、高価格帯製品へのシフト、経費の削減・効率化など、あらゆる選択肢を実施して吸収していく予定だが、広告費はしっかりかけていきたい。その上で広告効率も高めていき、連続増益を目指したい。
- Q. 海外の製品値上げ対応を国別で詳細に教えて欲しい。
- A. 米国では値上げ交渉が一部合意できている状態だが、米国売上全体に対してまだ割合は低い。東南アジア・中国での対応はこれからである。
- Q. 第1四半期の国内業績は2.5%増収となっているが、想定より悪いという評価か？
- A. コロナ感染拡大による外出自粛で既存品の売上が落ち込んでおり、想定より悪かった。
- Q. 一昨年、中国で新型コロナウイルスの感染が拡大した際に熱さまシートの販売規制があったと思うが、足元のオミクロン株拡大で同様に規制がかかっているのか？
- A. 以前同様、発熱対策品の規制が強化されており、販売禁止になっている都市もある。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではございません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。